



発行日：平成 26 年 9 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 19 回山部会WGを開催しました！

8 月 19 日（火曜日）に第 19 回山部会WGが岡崎市ぬかた会館にて開催されました。今回の WG では、「山村再生担い手づくり事例集」、「山村ミーティング」、「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」の 4 つのワーキングについて、進捗の確認と今後の進め方について話し合いました。



日時：平成 26 年 8 月 19 日（火）14 時～17 時
場所：ぬかた商工会館 2 階 青年部婦人部研修室
参加者：17 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

「山村再生担い手づくり事例集」は、年度内に 20 件以上の活動団体への聞き取りとレポート作成を行うことを目標に、昨年度と同様に、事例集としてとりまとめることを目的としています。今回は、取材先や取材者を確認するとともに、取材者を募集する文面などを確認し、取材についての意見交換を行いました。

矢作川流域圏懇談会に所属する個人・団体の方で、取材への参加を希望する方は是非、申し込みをお願いします。



2. 山村ミーティングについて

「山村ミーティング」については、矢作川流域圏の山村で活動する個人・団体が困ったときに話し合え、様々な情報を共有可能となる仕組みづくりを行うことを目的としています。

流域圏の山村で行われている様々な取り組みや団体のイベントへの参加を通じて仕組みづくりを検討しています。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏森づくりガイドラインは、矢作川流域圏の特徴的な森づくりについて所属する行政や市民の方々と森づくりに関するデータを収集し、情報共有を行っています。

今回は、開催地である岡崎市における森づくりについて、市の林務課の方からご紹介いただき、流域圏の森づくりについて共有化が図られました。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインについては、矢作川流域圏の木づかいの推進を実現化するための実践的なとりくみについて意見交換を行っています。今回も、「市民目線」から日常的に木づかいの推進に結び付く行動・活動（「さあ～しよう」）をイメージしながら、様々な取り組みについて情報共有が行われました。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

今年度取材を行う 21 団体と取材者募集の文面について決定し、今後は以下のように進めることとなりました。

8月(取材先の確定) → 9月中旬(取材者の募集、確定) → 9月末(取材者と取材先のマッチング) → 10月～12月中旬(取材) → 調査者によるレポートの作成・提出等、事例集の完成(12月～3月までを予定)

○主な意見

- ・ 矢作川流域圏懇談会のホームページへのアップをお願いしたい。あわせて。メールリストでの配信も行い募集者を広く募ってほしい。(洲崎)
- ・ ホームページへは取材先リストも掲載することがよい。また、今年度の調査では、昨年度取材を行った団体以外に、新たに 21 団体を取材対象としたといったニュアンスを加えられるとよい。(山本)
- ・ 取材への参加も意義があるが、事例集の作成過程で開催する編集会議も大変有意義であるのでぜひ参加してほしい。(洲崎)
- ・ 岡崎で広く活動をしている鳥川ホタル保存会も取材先候補にしてほしい。(眞木)



●山村ミーティングについて

「岡森フォレストーズ(岡崎森林組合の職員で構成されるバンド)」のライブを矢作川流域圏に周知して山の仲間を集めるなどの企画について話し合うとともに、山村活性化につながる流域内フェアトレードについて話し合いました。

流域内フェアトレードでは、おまかせ野菜ボックスの社会実験(地域外に購入者を集め、野菜ボックスの出荷者には森券で支払う仕組み)の企画などについて話し合いました。

○主な意見

- ・ 「おまかせ野菜ボックス」などは購入者向けに矢作川流域のためにもなることをPRできればよい。(洲崎)
- ・ 消費者からのニーズについても対応しつつ、交流をしていければよい。(松井)
- ・ 流域圏でやることに意味があるのでPRを進めて頂きたい。(沖)
- ・ 現金が動いた時に地域内で回るのかについて検証していくことが必要だと思う。矢作川流域圏で流通する貨幣ができればよい。そこに心寄せる人たちが経済を回していく仕組みができればよい。(山本)
- ・ 購入者の嗜好として地の者、旬のもの、アウトレット品を安く買いたいなど様々あるので考慮できればよい。(今村)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

流域圏の森づくりをカタログとしてまとめていく森づくりガイドラインは、森づくりにおける現状と課題、その解決手法に関して、川や海のメンバーへの説明資料とすることを目的としています。

今回は岡崎市の森林に関する取り組みについて紹介する VTR を見ながら、メンバー間で情報共有を図り、意見交換を行いました。

○主な意見

- ・ 山を親から引き受けた側にはこれを守っていく社会的な責任がある。(眞木)
- ・ 出荷された木材が、岡崎の材かどうかを確認する方法はあるのか?(今村)
 - ▶ 木材の確認には伐採届が最も正確である。(眞木)
- ・ 岡崎市では 450ha ずつの間伐目標を持っているが今後も順調にいきそうか?
 - ▶ 計画より若干の差がある。補助金(あいち森と緑づくり事業)がなくなったら厳しいのが実態である。(野村)
- ・ 森林環境税の導入を目指す他府県では、その使い道について様々な用途を検討しており今後の参考になる。(蔵治)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインでは、木づかいの推進に関わる様々な取り組みについて話し合っています。今回は、木づかい推進活動に関連して、スギダラ矢作川支部設立に向けて動き出したい、信州木材活用モデル地域活動支援事業について紹介がありました。

参加者それぞれが木づかいの推進に資する動機となる「さあ～しよう」の企画を考えてくることとなりました。

○主な意見

- ・ 木づかいガイドラインは、読んだら動きたくなるものにしていければよい。(洲崎)



今後のスケジュール(予定)と情報提供

次回の第 20 回山部会は 9 月 19 日(金)～20 日(土) 根羽村にて開催します。

